

2018年3月期 第3四半期 決算説明会資料

2018年1月30日@ベルサール八重洲
7741.T HOYA株式会社 [IFRS]

[メモ付きver]
説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

ハイライト

+10%

成長ドライバーであるライフケア事業が、M&Aとオーガニック成長の両輪により、二ケタ成長を達成

+5%

情報・通信事業は、3.5 inch HDD製品が立ち上がり始めたことなどにより、成長を維持

**1,368
億円**

以上により、過去最高の四半期売上を達成

※成長率は為替影響除きの数値

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況
3. ライフケア事業概況
4. 今後の見通し
5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q3 FY16	Q3 FY17	増減	増減率
売上収益	1,226	1,368	+142	+12%
税引前 四半期利益	325	347	+22	+7%
四半期利益	251	277	+26	+11%
[参考]通常の営業 活動からの利益	282	332	+50	+18%

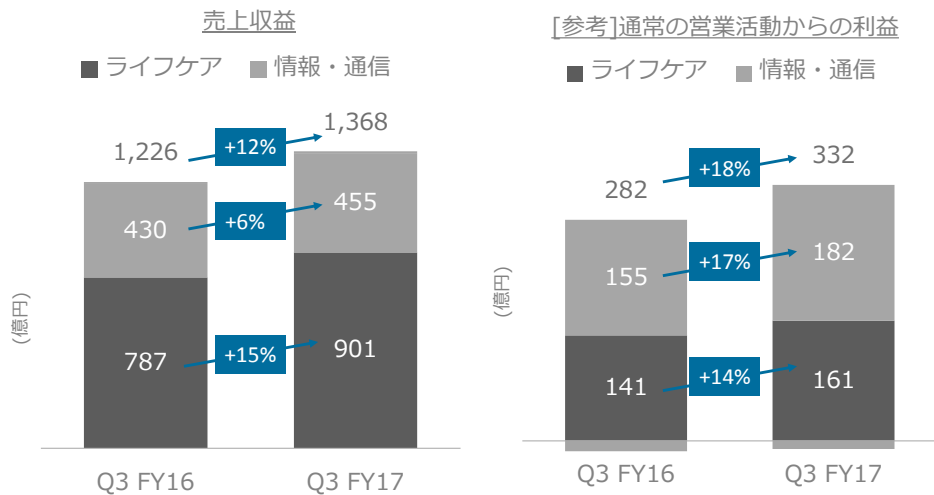
四半期として過去最高の売上を達成

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

4

※通常の営業活動からの利益は参考情報

業績内訳



© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

5

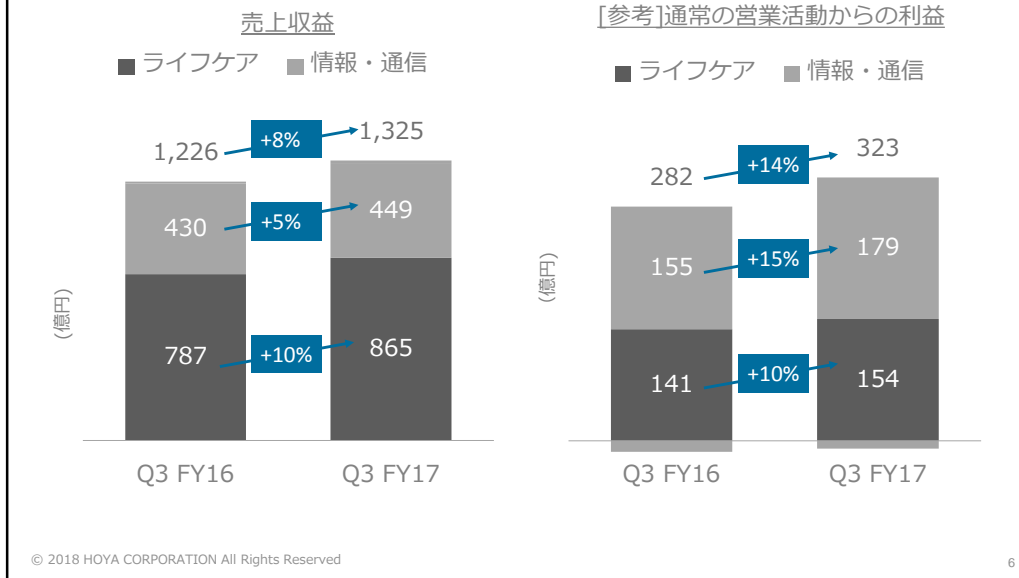
【税引前四半期利益】

ライフケア事業 170億円（前期比+31億円）

情報・通信事業 182億円（前期比+13億円）

なお、ライフケア事業において税引前四半期利益と通常の営業活動からの利益の差異が大きいのは、税引前四半期利益に特許関連の和解金16億円強が含まれているため。

為替影響を除く実質増減

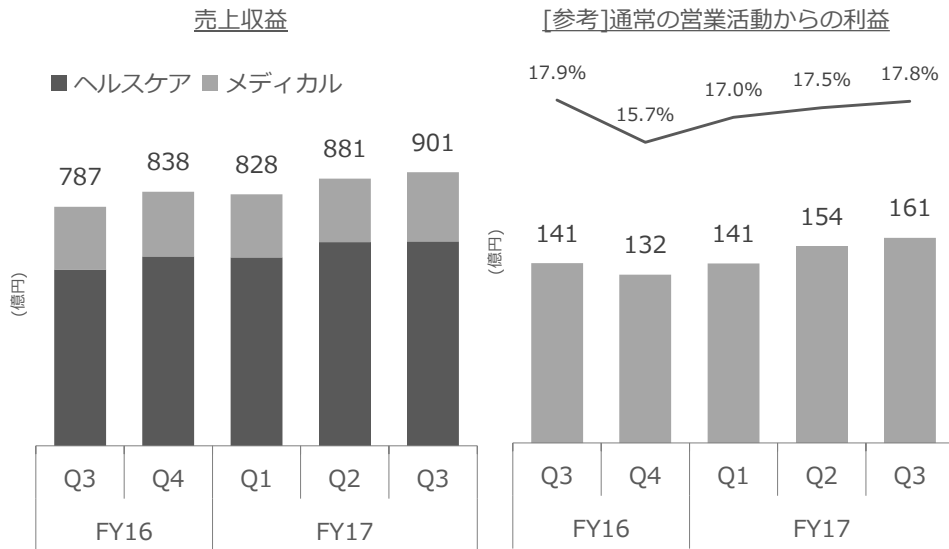


なお、ライフケア事業の売上収益は、2017年8月に買収が完了したPerformance Optics社等のM&A効果を除くと+3%であった。

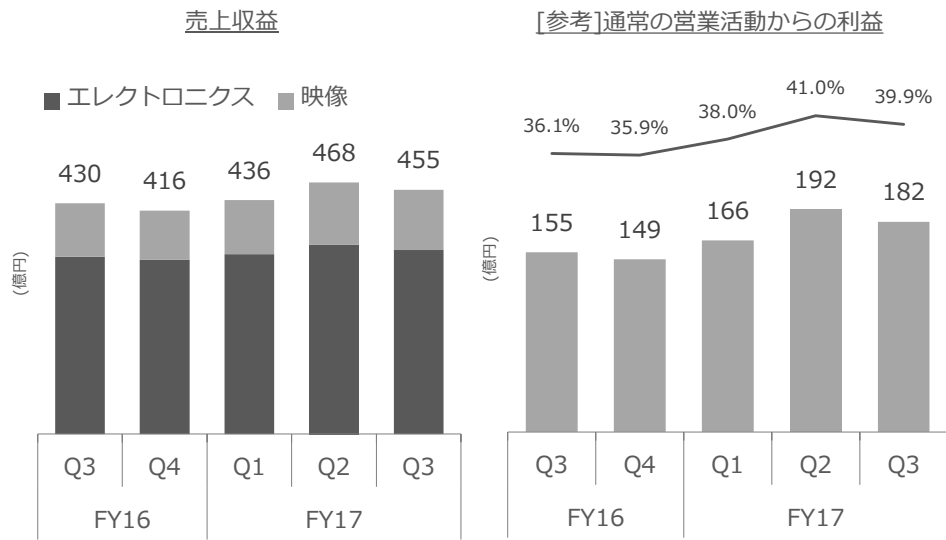
連結の税引前四半期利益は、為替影響を除くと+14億円（+4%）。

※参考情報として、通常の営業活動からの利益は、グラフに記載のとおり。

事業別業績：ライフケア



事業別業績：情報・通信



特殊要因

「通常の営業活動からの利益」への調整項目

(億円)	Q3 FY16	Q3 FY17	前期比
税引前四半期利益	325	347	+22
調整項目合計	43	15	-28
為替差損益	38	3	-35
その他の損益	3	12	+9
金融収益ほか	2	0	-2
[参考]通常の営業活動からの利益	282	332	+50

為替変動により、為替差益が35億円減少

特許に関する訴訟和解金等により9億円増加

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

9

【特殊要因】

当四半期のその他の損益に、特許関係の和解金16億円強が収益として含まれている。

貸借対照表

(億円)	Q2 FY17	Q3 FY17	増減
非流動資産	2,139	2,196	+57
流動資産	4,485	4,365	-120
資本	5,445	5,400	-45
非流動負債	179	166	-13
流動負債	999	993	-5
合計	6,623	6,560	-63

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

10

【貸借対照表】

-非流動資産

非流動資産合計額には影響はないが、のれんが増加し、無形資産が同規模減少。
 昨年8月に買収したPerformance Optics社のPPA(買収価額の資産負債への配分)が確定し、概算値と置き換えた為。

-非流動資産、流動資産

その他の短期金融資産が112億円マイナス。
 関係会社への貸付が短期から長期に置き換わった為、70億円強減少
 3ヶ月超の定期預金が3ヶ月未満になり現預金に置き換わった為、40億円減少

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q3 FY16	Q3 FY17	増減
営業活動 によるCF	232	315	+83
投資活動 によるCF	-189	3	+192
財務活動 によるCF	-115	-367	-252
現金及び 現金同等物 期末残高	2,732	2,286	-446

C2Tや3Mなどの買収
があった前年同期と
比べ投資活動に係る
支出が減少

前年同期はなかった
自社株買いの実施に
より財務活動に係る
支出が増加

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

11

【キャッシュフロー計算書】

-財務活動によるCF

当四半期の自己株式の取得による支出262億円は、

昨年12月に決議した自己株式の取得300億円分のうちの200億円と、昨年7月に決議したもののうち、当四半期取得分から構成される。

昨年12月決議の未実施分100億円は、この1月に取得済み。

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

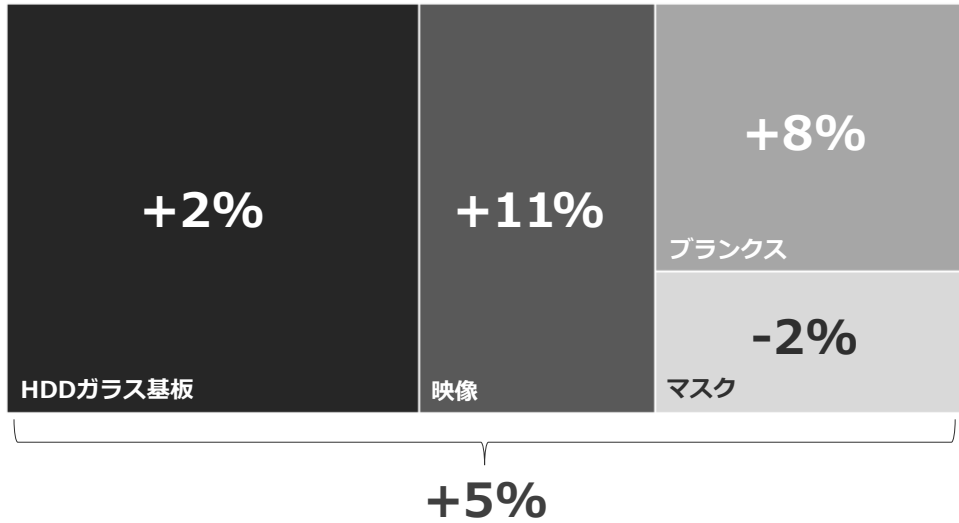
3. ライフケア事業概況

4. 今後の見通し

5. 質疑応答

情報・通信事業概況

為替影響を除く売上増減率



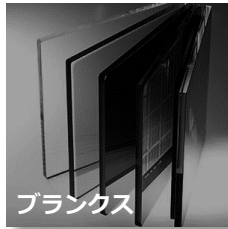
© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

13

【情報・通信事業全体の総括】

- HDDガラス基板は、前年同期より市場シェアが100%になったことで市場動向の影響をそのまま受けるようになったこと、また2.5インチガラス基板の市場は縮小傾向という厳しい状況。
- そのような事業環境のなか、売上成長を達成したことが情報・通信事業の主なトピックス。

製品別概況



足元

高精度品、EUV製品が売上成長を牽引

今後

EUV製品の開発推進、需要増に対する体制構築



足元

顧客の内製化や在庫調整により売上は横ばい

今後

強みである高精度品+中国市場開拓を強化

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

14

【半導体ブランク】

-現状、EUV露光製品は当社半導体向けマスクブランク売上の15%程度を占めており、前年同期比で30%以上増と急速に成長。

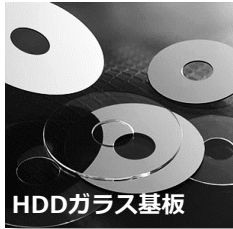
-現在、市場に出ているEUV露光機は20台程度で、2018年に22台、2019年に30台増える見込みから、強いモメンタムが当面継続するであろう。

【FPDフォトマスク】

-韓国メーカーにおいて全てを内製する訳ではないので、今後は外注分を着実に獲得していくとともに、中国メーカーへの営業活動を強化していく。

-なお、現在当社の中国メーカー向け売上比率は20-25%程度。

製品別概況

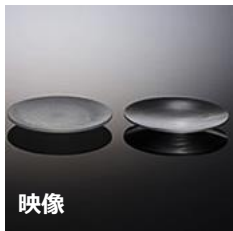


足元

3.5inchが2.5inchの減少を補完し増収

今後

2.5inch : NAND不足解消等により減少幅増大
3.5inch : ニアライン用途が来下期以降存在感



足元

デジカメ需要が堅調
監視カメラ向けが引き続き好調

今後

監視カメラ/車載カメラ用途の拡大を図る

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

15

【HDDガラス基板】

- 3.5inchの売上はHDDガラス基板売上の10%近くに成長。
- 現在、ニアラインサーバー市場では10TBが主力だが、本年後半から当社3.5 inchガラス基板を搭載した12TB製品の本格的な数量増加を見込んでいる。
- Q4は、ベトナムの工場の長期休暇による生産物量減少、前期Q4がNAND供給不足等により季節要因と関係なく売上が大きかったことから、YoY比較で減少を見込む。

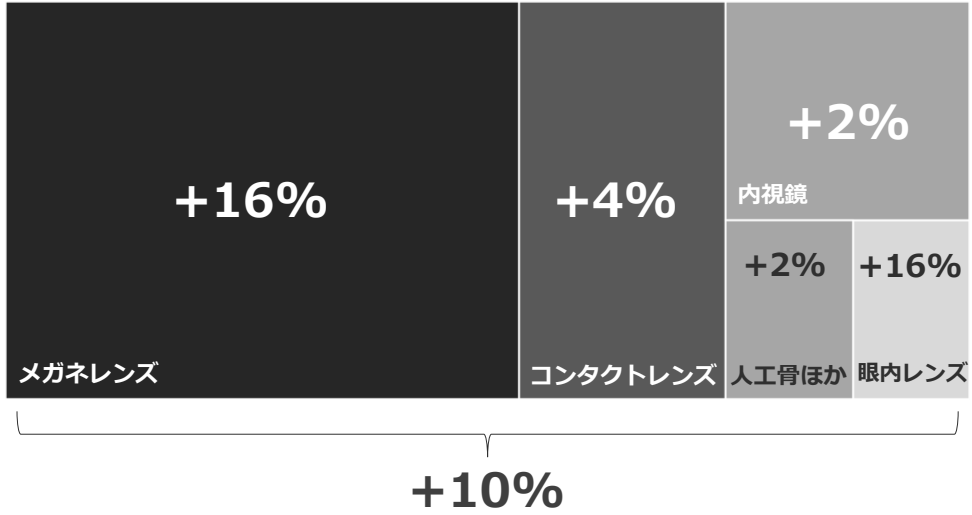
【映像】

- 監視カメラ向け製品売上が全体に占める割合は20%超、デジタルカメラ向けは50%弱。
- デジタルカメラ市場全体の台数は減っているが、当社が製造している非球面ガラスレンズが使われる高級機・ミラーレスは増加。

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 今後の見通し
5. 質疑応答

ライフケア事業概況

為替影響を除く売上増減率



© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

17

【ライフケア事業全体の総括】

-ライフケア事業は、M&Aに伴う増収効果を除いたオーガニック成長は停滞気味の四半期であった。

製品別概況



足元

M&A効果と米州での販売好調により、欧州のマイナスをカバー

今後

買収先とのシナジー推進



足元

既存店売上UP+新規出店により堅調
高機能商品の売上比率が微増、客単価が上昇
店舗数 281店 (QoQ +1店舗)

今後

引き続き年間15店舗前後出店

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

18

【メガネレンズ】

- オーガニック成長は2%弱。
- 地域で明暗があり、日本と欧州での苦戦を米州（1桁後半の伸び）とAPAC（1桁半ばの伸び）でカバーする形。
- 日本は台風など天候不良が続いたのがマイナス。
- 欧州は、競合他社が価格攻勢に出ているが、当社はあえて価格競争を避け、売上減となっている。

【コンタクトレンズ】

- 以前にも増して、立地が販売成績のよし悪しに影響するようになっており、慎重に場所を選んで出店している。
- 今後は、既存店売上は堅調だが、出店ペースを抑えているため、以前のような+8~9%ではなく+4~5%の売上成長となる見込み。

製品別概況



足元

主力製品が好調で2ケタ成長継続
タイ新工場の稼働率が徐々に向上

今後

海外攻勢をいっそう強め、売上倍増を目指す
(FY16⇒FY20)



足元

欧米が苦戦したものの、APACが好調
収益性が改善

今後

独自性ある製品展開+新興地域開拓を図る

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

19

【眼内レンズ】

- 昨年8月、タイに新工場を立ち上げたため、生産量は前年比で40%増加する。
- 平均単価が比較的の低いスタンダード製品を増産するため、金額ベースでは40%増加とはならないが、継続的に二桁成長が続くだろう。

【内視鏡】

- アジアは好調、欧米は横ばい。
- 欧州では例年、公立病院が年度末に入札案件が集中するが、本年はそうした動きが弱かった。
- 収益性は本来あるべき姿には達していないが、改善。

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 今後の見通し [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

2018年3月期 通期予測

FY17 Q4 予測

(億円)	Q4 FY16	Q4 FY17	増減	増減率
売上収益	1,263	1,353	+90	+7%
税引前四半期利益	244	299	+55	+23%
四半期純利益	190	243	+53	+28%

FY17 通期予測

(億円)	FY16	FY17	増減	増減率
売上収益	4,789	5,350	+561	+12%
税引前利益	1,108	1,280	+172	+16%
当期利益	868	1,040	+172	+20%

【為替前提】 USD=¥110 EUR=¥130

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

21

【情報・通信事業の展望】

-HDDガラス基板については、楽観視こそ出来ないものの、3.5 inchが立ち上がってきたため、以前ほど悲観的な見方ではなくなった。

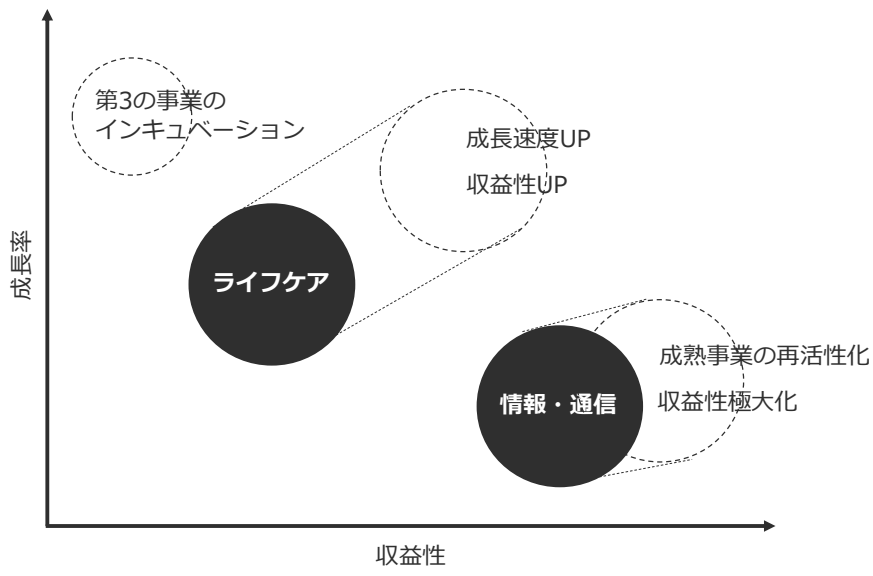
【ライフケア事業の展望】

-ライフケア事業全体での利益率20%を目指しているが、一四半期ほど遅れる可能性が高い。

-買収した会社の中国工場の統合が当局からの規制により移転を求められており、統廃合計画を見直している。

-また、売上増が想定ほど収益増に寄与しておらず、内部体制の強化を図っている。

今後の注カポイント



1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 今後の展望
- 5. 質疑応答**

質疑応答内容-1

Q

[ブランクス]

EUV露光装置数の生産数増加など、EUV量産に向けた動きがあるが、HOYAのブランクス事業に対する影響は？

A

露光装置が増えるにつれ、ブランクス需要は増えるだろう。ただし、売上の製品ミックスにもよるので、比例するとは限らない。

Q

[HDDガラス基板]

今回、HDDガラス基板の売上が底堅いとの見方を示したが、一方でNANDの供給量増加も予想される。今後の市場の見立ては？

A

2.5 inch基板の減少度合いについては、ノートブックPCが今後どの程度SSD化されるかに左右される。直近ではHDDガラス基板事業の縮小は当初想定していたほどではない。

質疑応答内容-2

Q

[フォトマスク]
第10世代（G10）以降への対応方針は？

A

中国においてG10やG10.5の工場が立ち上がってきている状況は認識している。HOYAとしては需要と供給のバランスを見ながら慎重に検討していく。

Q

[HDDガラス基板]
今回の増収は単価上昇によるものか、それとも数量の増加によるものか？
また、2.5inchと3.5 inchの面積あたりの単価の違いは？

A

2.5 inchの数量が減少した分を、3.5 inchの数量増によってカバーしている。
3.5 inchは、生産効率は単純に言うとも2.5 inchの50%程度で、コスト上昇要因となる。一方、3.5 inchは生産工程が2.5 inchと異なる部分があり、コスト削減が可能である。

質疑応答内容-3

Q

[ライフケア事業全体]

事業環境として変化があったところは？成長の方向性は？

A

事業環境は製品ごとに状況が大きく異なる。

メガネレンズで言えば、日本は底を打った、米国は成長が鈍化している、ヨーロッパは数量増だが一部地域で単価が落ちてきており、全体として成長が鈍化している。海外での市場シェアが小さいため、競合のシェアを獲得して成長するなど、色々とやりようがある。

内視鏡についてはニーズは下がっておらず、内視鏡検査の件数は増えてきているが、病院が以前より効率的な使い方をしており、購買需要の面で厳しい状況が続く。以前と異なり複数社との比較購入の動きもあり、当社にとってプラスと考えている。

Q

[その他]

ライフケア事業、情報・通信事業に次ぐ第3の事業についてはどのように考えているのか？

A

高収益かつ買収額がリーズナブルな案件を探している。
バリュエーション的に折り合いが付かない案件が多いのが現状。

本資料の表記について

- ✓ 2017年4月～2018年3月の会計期間を2018年3月期もしくはFY17と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。